

自然談話にみるVN漢語使用

谷部 弘子

1. はじめに

「この単語は話すとき使いますか、書くとき使いますか。」中級段階の外国人日本語学習者からよくこういった質問を受ける。辞書をひくことで基本的な語義はわかっても、使い方あるいは使っている場面がわからない。日常語か否か、口頭で使って不自然ではないか、ということが辞書をひいてもわからない¹。中級段階は、話しことばから書きことばへの移行期で、比較的あらたまった文章の読解を通して語彙を拡張していく。そうした中で、特にこの時期急激に増える漢語動詞はすでに学んだ類義の和語動詞との使い分けなど課題が多い。「学ぶ／学習する／勉強する」「使う／用いる／使用する」「集まる／集う／集合する」などに見られるように、和語動詞と漢語動詞の位相差は一樣ではなく、適切な用法の習得はなかなか困難である。話しことばでは一般に「漢語の用いられることが少ない」²ということが言えるが、場面によっては漢語が語種比率で30%を超えるという調査結果もあり（中野1987、谷部1994）、漢語そのものは話しことばにおいてもかなりの位置を占めている。が、漢語が動詞として述語部分に使われることは少ないようである（谷部1994）。

本稿では、サ変動詞となりうる漢語に焦点をしばって出現状況を調査し、話しことばに現れる漢語動詞の特徴を場面・話題との関連性において考察する。なお、ここで言う漢語とは「字音語」であり、字訓のサ変動詞は対象としない。

2. 調査資料と手順

調査資料として、筆者も調査の一員として携わった現代日本語研究会編（1997）を使用する。時間にして合計約9時間の自然談話を文字化しデータベ

ース化したもので、発話件数11421件の資料である。職場内の談話という限定はあるものの、職場外の人との会議、交渉等かなりあらたまった場面から昼休みの同僚との雑談等かなりくつろいだ場面まで多様な言語行動が見られ、また世代も20代から60代まで幅広い年齢層をカバーしているからである。

なお、谷部（1994）は、現代日本語研究会編（1997）のデータの一部である、各世代4名の女性インフォーマントの発話を対象とし、同一話者の場面による漢語使用の差についてみたものである。

調査の手順としては、まず、サ変動詞となりうる漢語（名詞としても動詞としても機能する語という意味で、以下「VN漢語」とする）を抽出し、その語が各発話において動詞として使われているか名詞として使われているかみた。サ変動詞の認定については三省堂『例解国語辞典』および『新明解辞典』を参考にし、なるべく広い範囲で決定した。また、辞書の見出し語にはないが、発話データの中で動詞として使われているもの―「休出する」（休日出勤の意）「検収する」（業務上の専門用語）など―は無条件に採用した。

3. 調査の結果と考察

3.1 VN漢語の用法別出現状況

まず、調査資料からVN漢語を取り出した結果、1501例、異なり語にして453語が得られた。各語が発話の中で動詞として使われているか名詞として使われているかをみた用法別出現数は、〈表1〉の通りである。

もっとも出現数の多かった語（「電話」）は57例であったが、谷部（1994）でもそうだったように、1語当たりの出現数が少なく、平均3.3例である。出現数5例以上の語は計89語、19.6%を占めるにすぎない。逆に、出現数1例のみの語は225語と、異なり語全体の約半数を占める。つまり各語の使用範囲が非常に狭いのが特徴である。

動詞として使用された例は341例で、全語例の4分の1弱（22.7%）にとどまった。動詞として機能しうる漢語も、実際に動詞として使われることは多くないということである。動詞用法が多いか名詞用法が多いかは、語によっ

〈表1〉VN漢語の用法別出現数

VN漢語	出現数	V	N	-N-
電話	57	16	37	4
関係	27	1	21	5
仕事	26	4	22	0
活動	25	2	10	13
養成	24	0	0	24
研究	21	2	4	15
連絡	18	4	9	5
介護	17	1	12	4
司会	17	0	11	6
説明	17	2	3	12
失礼	16	13	3	0
入稿	16	7	7	2
保守	16	0	3	13
指定	15	3	4	8
世話	15	0	15	0
回答	14	0	0	14
討論	14	0	12	2
意味	13	0	13	0
研修	13	1	5	7
広告	13	0	5	8
遅刻	13	0	12	1
無理	13*	2	1	1
旅行	13	1	6	6
印刷	12	6	2	4
参加	12	2	3	7
該当	11	0	0	11
指導	11	3	2	6
証明	11	0	4	7
心配	11*	5	2	0
請求	11	1	4	6
保護	11	0	0	11
保証	11	0	8	3
授業	10	0	8	2
留学	10	2	0	8
会議	9	0	5	4
教育	9	0	1	8
作業	9	1	4	4
出張	9	0	8	1
予定	9	0	8	1
位置	8	0	7	1
視察	8	0	8	0
出版	8	0	0	8
食事	8	1	6	1
担当	8	0	3	5
特集	8	0	4	4
報告	8	2	2	4
依頼	7	2	5	0
希望	7	1	2	4
休業	7	0	2	5
議論	7	5	2	0
計算	7	3	4	0

質問	7	2	5	0
写植	7	0	4	3
進行	7	0	2	5
卒業	7	1	0	6
通信	7	0	1	6
編集	7	1	1	5
会話	6	0	5	1
結婚	6	6	0	0
検討	6	2	0	4
削除	6	4	1	1
指示	6	2	4	0
実施	6	3	3	0
取得	6	0	0	6
消費	6	0	0	6
選択	6	3	2	1
保育	6	0	0	6
保存	6	2	3	1
練習	6	2	4	0
録音	6	1	2	3
挨拶	5	1	3	1
意見	5	0	5	0
一括	5	0	3	2
営業	5	1	2	2
確認	5	4	1	0
規定	5	1	0	4
機能	5	1	1	3
緊張	5	4	0	1
工事	5	1	3	1
校正	5	0	1	4
辞職	5	3	2	0
取材	5	1	4	0
生活	5	0	3	2
追加	5	1	0	4
点減	5	2	3	0
納品	5	1	3	1
法制化	5	0	5	0
面接	5	0	5	0
予約	5	3	1	1

4	(出現数4例の語)	案内	往復	我慢
完成	經由決定	行動	在職	就職
出席	紹介生産	相談	反対	就任
判定	分解分類	勉強	翻訳	判断
3	安心意識	開発	拡大	関連
休館	教授協力	苦勞	経験	記憶
講義	交替合同	交付	誤解	欠席
担当	出動出発	準備	浄書	公演
特集	實了設計	折衝	彫刻	出荷
報告	獨立認可	配分	暴露	審議
依頼	變更返事	離職	領収	推薦
1	一致ほか70語			毒殺
1	暗記ほか225語			分析

計453語 出現総数1501(うち動詞用法341)
(V: 動詞用法 N: 名詞用法
-N-: 複合名詞用法)
* 形容動詞・副詞としての用例数を含む。

て異なる。出現数5例以上の語については、以下のような使用傾向を見ることができる。

a. 動詞用法の割合が比較的高い語（動詞用法例数/全用例数）：

失礼（13/16）印刷（6/12）心配（5/11）議論（5/7）結婚（6/6）削除（4/6）
実施（3/6）選択（3/6）確認（4/5）緊張（4/5）辞職（3/5）予約（3/5）

b. 名詞用法の割合が高い語（名詞用法例数/全用例数）：

電話（37/57）関係（21/27）仕事（22/26）介護（12/17）司会（11/17）
世話（15/15）意味（13/13）遅刻（12/13）討論（12/14）保証（8/11）
授業（8/10）出張（8/9）予定（8/9）視察（8/8）食事（6/8）など

c. 複合名詞用法の割合が高い語

（複合名詞の一部として使用された例数/全用例数：例）：

養成（24/24：養成講座）研究（15/21：研究員、研究者、研究室他）
説明（12/17：説明変数）回答（14/14：複数回答）該当（11/11：該当者、
該当人数）保護（11/11：保護者）証明（7/11：証明書）教育（8/9：日
本語教育）出版（8/8：出版社、出版界、出版関係）取得（6/6：資格取
得、学位取得）消費（6/6：消費税）など

動詞用法の割合が比較的高い語は、他の二つのグループに比べ、出現数自体があまり多くないため、どのような語が動詞としてよく使われるか、何らかの特徴を見出すことはむずかしい。出現数のもっとも多い「失礼」の場合、動詞用法は「失礼します／失礼しました」というあらたまった場面での挨拶表現がほとんどであった。この「失礼する」をはじめ「印刷する／心配する／結婚する／緊張する／予約する」などは、和語動詞への置き換えが困難な語群と言えよう。「削除する、選択する」は、対応する和語（「けずる／のぞく」「えらぶ」）もあり、通常日常談話では使いにくい語であると思うが、コンピュータ関連の操作用語として使われている。コンピュータの普及にともない、「変換する」なども含めて、こうした語類は今後日常語化することが考えられる。

名詞用法の割合の高い語を見てみると、まず、「関係」「意味」といった動作性の弱い名詞があがっている。「関係」の動詞用法は、連体修飾節内に現れた1例のみであった。「意味」は名詞用法しか現れていない。両語は辞書の語義記述でも、名詞とサ変動詞の意味を別個に立項しており、「結婚、相談」のような動作性の強い漢語とは性格を異にする。一方、同じく名詞用法のみの「世話」は、すべてが「世話になる」という受動的な動詞句で使われている。「世話する」という能動的な動詞用法は一件も見当たらなかった。動詞用法の割合が比較的高い語と名詞用法の割合が高い語の間に一線を画する決定的な要素は見当たらないが、「授業らしい授業、予定らしい予定」という表現が可能なのに対し、「心配らしい心配、結婚らしい結婚」という表現が不自然であることを考えると、VN漢語は動作性の程度によっていくつかの階層に分けることができそうである。

複合名詞用法の割合が高い語をみてみると、出現数の比較的多い語でも、ある特定の語を構成し、バリエーションが少ない。「養成／該当／出版」など7語は、現れた語例すべてが複合名詞用法であった。

3.2 VN漢語の談話場面別出現状況

〈表2〉は、出現状況を用法と場面別に見たものである。休憩時や仕事中の雑談をくつろいだ場面〔場面Ⅰ〕、会議や打ち合わせをあらたまった場面〔場面Ⅱ〕とすると、資料の全発話データ11421件のうち前者が6520件を占める。したがって、両場面はほぼ同数と考え、場面別出現数の割合を見た。

〈表2〉VN漢語の用法と場面別延べ出現数

用法	延べ出現数 (%)		
	場面Ⅰ	場面Ⅱ	計
●●スル (動詞用法)	130 (38.1)	211 (61.9)	341 (100)
●●-助詞 (名詞用法)	160 (26.7)	440 (73.3)	600 (100)
—●●— (複合名詞用法)	148 (27.4)	392 (72.6)	540 (100)
その他 (形容動詞／副詞)	3 (15.0)	17 (85.0)	20 (100)
計	441 (29.4)	1060 (70.6)	1501 (100)

場面別に見ると、くつろいだ場面〔場面Ⅰ〕での使用は、あらたまった場

面〔場面Ⅱ〕での使用よりいずれの用法も少ない。VN漢語があらたまった場面に多いということは、漢語が話しことばよりも書きことばに多いことの反映であり、予想された結果である。谷部（1994）では、4名のインフォーマントの〔場面Ⅰ〕〔場面Ⅱ〕の発話から各300語について語種比率を見たが、そこで得られた延べ546例の漢語について言えば、〔場面Ⅰ〕と〔場面Ⅱ〕の比率は1:1.8であった。今回、VN漢語に限って見てみた結果、〔場面Ⅰ〕と〔場面Ⅱ〕の比率は1:2.4とやや差が広がった。しかし、動詞用法は、名詞用法の場合より、くつろいだ場面での割合が高くなっており、この点に関しては意外な結果となった。

3.3 VN漢語の動詞用法と場面・話題との関連性

上で見たように、漢語動詞の6割強は会議や打ち合わせなどあらたまった場面で使用されている。休憩時間や仕事中のくつろいだ場面（雑談）に現れたのは130例である。異なり語でいうと93語になり、うち73語は出現数1回のみ、さらに73語のうち41語はあらたまった場面を合わせても出現数1回のみの語である。複数回使われている語もその半数は単一場面に出てきており、くつろいだ場面においても各語の出現は場面依存性が高いということが言える。また、3.1で示した、複合名詞の一部として多く使われている語は、いずれもあらたまった場面でのある特定の話題の核となる語を構成している。

以下は、くつろいだ場面〔場面Ⅰ〕とあらたまった場面〔場面Ⅱ〕の各々で漢語動詞の使用が多かった2場面を取り上げ、どのような漢語が使われているかを例として示したものである。

〔場面Ⅰ〕

No. 16^{注3}: (仕事や同僚の動向、出産手当の額の算出方法などを主な話題とした同僚との雑談)

期待・計算・固定・邪魔・衝突・請求・選択・尊敬・入稿(2)・平均・保障(計12例)

No. 01 : (音楽会等の企画会社の同僚との雑談)

苦勞・結婚・決定・誤解(2)・電話(4)・入院・満足(計11例)

[場面Ⅱ]

No. 06 : (新しく出版する本の執筆者に対する社長交替の報告および執筆者の分担部分のアウトラインについての検討)

挨拶・依頼・英訳・歓迎・議論(3)・結婚・決定・検討・指示・失礼・就任・出社・準備・心配(2)・説明・代行(2)・把握・発案・発見・報告・連絡(計25例)

No. 03 : (印刷会社の部長・部員との雑誌の印刷発注に関する打ち合わせ)

営業・確認・計算・決定・再考・指定・重視・専攻・対応・調整・追加・入稿(5)・納品・反映(計18例)

各談話の時間はいずれも約10分であるが、あらたまった場面でもっとも漢語動詞の使用が多かったのは、No. 06の会議場面で21語25例、くつろいだ場面でもっとも多かったのは、No. 16の朝の雑談場面で11語12例であった。No.06では社長交替の話題に関して「挨拶、就任、出社、代行」といった語が、No.03では印刷発注の話題に関して「指定、調整、入稿、納品」といった語がそれぞれ内容を物語っている。その他の場面について見ても、あらたまった場面のほうが話題と直接結びついた動詞がより多く現れる、ということがわかった。また、仮に、「日本語能力試験 1 級語彙」(7800語) および国立国語研究所の『日本語教育のための基本語彙調査』で選定された「基本語六千」の範囲にある語を「基本語」とすると、基本語の範囲を超える語彙(発案、代行、就任、納品、入稿、再考など)の出現が多くなる。くつろいだ場面でも、No. 16のように話題が仕事にも及んでいると「入稿」といった業務上の専門的な用語が出てくるが、その他は基本語の範囲内にとどまっている。くつろいだ場面に現れた93語では、その他「映画化、専門分化、文字化」など複合形、「休出、変死、散布、占拠、早退、速読、退会、脱走、同棲、毒殺」の14語が基本語外の語にあたる。

4. おわりに

以上みてきたように、漢語が話しことばにおいて動詞として使われることは少なく、特に、動作性よりも名詞性の強い語が動詞として使われることは少ない。しかし、場面や話題と直接関わる語が多いために、実際に使われる漢語動詞の種類は多様であり、特にあらたまった場面では基本語の枠を超える語もしばしば現れる。くつろいだ場面に現れる漢語動詞は、傾向としては基本語の範囲内にあるが、場面や話題によっては、非日常語と思われる漢語動詞も出現している。野村（1993）は、様式論的な観点から、文体的価値にかかわる漢語の位相的特徴について論じ、日常語と雅語、文章語との対立を観察しているが、漢語とくに漢語動詞は話題に規定される面が強く、語そのものの位相を特定することは困難である。

今回は、あらたまった場面とくつろいだ場面とに大きく分けて考察したが、あくまでも職場内の談話であるため、くつろいだ場面に関しては公的な側面を残しているものもある。家族内の談話などきわめて私的な場面での漢語使用については今後の検討課題としたい。

注

注1) 大野晋・浜西正人（1981）は、掲載語のすべてについて「日常語、文章語、俗語」といった位相を記述している点で、特筆すべき辞書である。しかし、認定の基準については明らかにしていない。

注2) 金田一春彦・林大・柴田武1989『日本語百科大事典』p. 679

注3) 現代日本語研究会（1997）のデータは19名の女性インフォーマントに調査を依頼し、収集したものであるが、このNo. はその被調査者番号である。

参考文献

大野晋・浜西正人（1981）『角川類語新辞典』角川書店

現代日本語研究会（1997）『女性のことば 職場編』ひつじ書房

国際交流基金・財団法人日本国際教育協会（1994）『日本語能力試験出題基準』凡人社

国立国語研究所（1984）『日本語教育のための基本語彙調査』（国立国語研究所報告78）

中野 洋 (1987) 「話しことばの語種の調査」『計量国語学と日本語処理－理論と応用』秋
山書店 pp. 137-150

野村雅昭 (1993) 「現代の漢語・漢字の位相」『日本語学』第12巻第8号 pp. 32-40

谷部弘子 (1994) 「談話場面と漢語使用について」『職場における女性の話しことば－自然
談話録音資料に基づいて－』現代日本語研究会 (財団法人東京女性財団
1993年助成研究報告書) pp. 4-11

(やべ ひろこ)